

悪性脳腫瘍克服のための新規治療標的及びバイオマーカーの創出に向けた多施設共同研究による小児頭蓋内胚細胞系腫瘍の遺伝子解析

研究対象:

過去に説明文書「手術・検査等で採取された組織の寄贈及び診断・教育・研究のための使用についての説明書」により同意の得られた患者さんと、新たに治療を開始する同意の得られた患者さんの、手術で摘出された標本のうち病理組織診断で使用しない余剰検体を研究資料といたします。対象の病気は 20 歳未満の小児頭蓋内胚細胞系腫瘍です。

研究の概要:

小児頭蓋内胚細胞系腫瘍の患者さんの凍結組織を用いて、全遺伝子のエクソンまたは RNA のシーケンス(塩基配列)解析を行います。解析は、国立がん研究センターに設置されている次世代シーケンサーを用いて網羅的に行います。

研究の意義:

脳腫瘍は大変重篤な病気であるにもかかわらず、どのように発生するかなどについては今まで不明でした。近年、次世代シーケンサーという革新的な技術によって全ての遺伝子を網羅的に調べることが可能になり、この方法を使ってすでに様々ながんについて新しい治療法が開発されています。この研究では、国立がん研究センターの次世代シーケンサーを使って脳腫瘍の遺伝子異常を解析し、より優れた診断法や治療法を開発するという意義があります。

目的:

この研究で様々な種類の脳腫瘍にそれぞれ特徴的な遺伝子変異などを特定することによって、これらの腫瘍の成り立ちを解明し、診断法の向上や治療方法の選択に役立てること、さらには新たな分子標的治療薬を開発することを目指します。

方法:

手術によって摘出され、北里大学医学部脳神経外科に凍結保存されている脳腫瘍組織と非腫瘍組織の一部(約 200mg)から、DNA, RNA(遺伝子を含む物質)を抽出します。これらのうち遺伝子に相当する部分に対して、国立がん研究センターに設置さ

れている次世代シーケンサーにより網羅的な塩基配列の解析を行います。この研究のために予定された手術の方法や切除範囲が変わることはありません。通常の顕微鏡などによる病理組織検査に支障を来たさない場合にのみ、凍結組織は採取され使用されます。

研究結果の公表

この研究により得られたデータは非常に重要ですので、多くの研究者に提供することにより病気の原因の解明や治療法・予防法の確立に広く役立てられる可能性があります。このため、個人情報 that 特定できないようにした上でデータを学会や学術誌で発表し、また厳正な審査を受けて承認された研究者にのみ利用を許可された公的データベースに登録して、審査を経て許可された研究者と情報を共有することがあります。

個人情報保護に関する配慮

患者さんの検体や診療情報からは住所、氏名などは削られ新しく符号がつけられます(匿名化)。これらの解析結果については、北里大学医学部脳神経外科・国立がん研究センターには守秘義務があり、患者さん及びご家族のプライバシーの保護には十分注意いたします。匿名化された情報は厳重に保管します。したがって、学会や学術誌などへの研究成果の発表またはデータベースへの登録などによって、患者さんの個人情報が漏れたり、特定されたりすることはありません。患者さんもしくはご家族がこの研究へのご参加を希望されない場合は、以下の連絡先までご連絡いただけましたら、その型の資料は本研究に利用しないようにいたします。

照会先および研究への利用またはデータベース登録を辞退する場合の連絡先

北里大学医学部脳神経外科

隈部俊宏・宮島良輝・湯澤 泉

〒252-0374 神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号

電話番号: 042-778-9337

FAX: 042-778-7788